

### 同時代の研究

- ・「象徴」をいかに解釈するのか  
憲法学の立場から  
憲法改正をめぐる動きとの連動
- ・社会学や社会心理学による天皇制研究  
時代状況に影響を受けたもの
- ・松下圭一「大衆天皇制論」（『中央公論』第74巻第5号、1959年）  
新しい政治学の流れ  
→井上清による批判：マルクス主義からの

### 1970年代からの変化

- ・占領期への注目  
アメリカ・公文書公開を受けて  
武田清子『天皇観の相剋』（岩波書店、1978年）
- ・思想史や憲法学の検討  
やはり時代状況との関係性
- ・ジャーナリズムやノンフィクションからの視点  
現状批判としての意味  
高橋紘の仕事  
皇室の現状と歴史的背景に関する言及  
史料発掘（例：『側近日誌』（敗戦直後の木下道雄侍従次長日記）など）  
研究に与えた影響力

## 1990年代以降の状況

- ・史料状況の変化

マルクス主義の影響力が低下

昭和天皇の死去

→日本側の史料が様々に公開

例：『昭和天皇独白録』（文藝春秋、1991年）

- ・昭和天皇は「平和主義者」であったのか？

死去時のイメージに対して

- ・国民統合の視点

「自粛」騒動を受けて

社会や思想に関する研究の進展

各分野からの参入

## 近年の状況

- ・占領期以後を歴史研究の対象に

- ・戦前と戦後の連続性／非連続性

## 参考文献

河西秀哉「象徴天皇制・天皇像研究のあゆみと課題」

（河西編『戦後史のなかの象徴天皇制』吉田書店、2013年）

河西秀哉『近代天皇制から象徴天皇制へ』（吉田書店、2018年、序章）